



准教授

于 臣

ウ シン

国際戦略推進機構基盤教育部門
yuchen@ynu.ac.jp

【研究概要】

商人は往々にして「利」のみを貪り、「義」を知らぬ塊とされてきました。今でも商業倫理の問題は古くから問われつづけてきた課題であるにもかかわらず、研究者による新しい視座の提示が求められています。しかし、経済界の不正事件の多発は、単に経済人(個人、企業団体)自身のモラルの問題によるのみならず、政治・社会・経済体制とかかわりあっている問題です。そして社会体制における商人と社会、政府と民間(「官」と「商」)、個人と団体、国内と国外の関係等はすべて、経済人がいかに「義」と「利」、「公」と「私」の関係を処理するかによって決められます。本人は歴史を問う視座によって、日中両国の商人がいかなる「義・利」「公・私」観念を抱いていたのかを再考し、経済倫理の問題を検討しています。

【アドバンテージ】

近年、日中両国において、経済倫理の問題は注目され、研究が進められてきました。だが、管見するかぎり、再考すべき点があります。中国の場合、新しい倫理構築の根拠を西洋的倫理思想のみに追及する傾向が強く、日本の場合、歴史上の有名な経済人に対する強引な功利主義的解釈が目立ちます。これらの研究現状に対して、本研究は東洋的倫理思想の源流を重視すると同時に、政治や社会変動に伴う商人の言動に焦点を当てて考察を試みています。

【事例紹介】

- ①新しい史料の発掘と分析を通して、日中両国商人の「義・利」「公・私」観念の生成、発展と変容の過程を時系列に明らかにしています。
- ②キャッシュレス化が急速に進む中国社会の特徴を解明しています。

■ 相談に応じられるテーマ

日中両国の経済発展と伝統思想との関係
歴史から見る国家と社会と企業との関係
中国人と伝統文化
日系企業の現地化問題
中国人との付き合い方

■ 主な所属学会

日本教育学会
日中社会学会
渋沢研究会

■ 主な論文

『近代日中実業界からみる民間外交の一側面—南洋勸業会と近藤渡清実業団を中心に』『北東アジア研究』23号 2012.3
『梁啓超の国家論に関する一考察—國權、國民論を中心に』『横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ(人文科学)』12巻 2010.12
『近代日中両国の商業教育の特徴に関する一考察—福沢諭吉の教

育構想における「公・私」観を中心に』『東アジア文化交渉研究』2号 2009.3

『経世済民』からみる儒学と「啓蒙」との関係—西周と張謇の例を通じて』『北東アジア研究』17号 2009.3

■ 主な著書

「渋沢栄一は漢学とどう関わったのか—『論語と算盤』が会出う東アジアの近代」(共著)ミネルヴァ書房、2017年2月
「渋沢栄一と中国—一九一四年の中国訪問」(訳書)不二出版、2016年7月
「渋沢栄一と〈義利〉思想—近代東アジアの実業と教育」(単著)ベリカン社、2008年3月